

役場全体で取組む防災危険箇所点検の事例(熊本県小国町)

取組概要

- ・水害の多い小国町では、梅雨期を前に職員を7班に分け、管内をパトロールし防災危険箇所の点検を実施している。
- ・点検の結果は、小国町防災会議や小国町行政部長会(区長会)・自主防災リーダー会議、消防団等関係機関に報告・共有することで、住民の防災組織の向上を図っている。

人口7,423人

担当 総務課

取組の効果

- ・住民の防災意識の向上⇒早期の避難行動
 - ・職員が具体的な災害像を醸成⇒災害に応じた迅速な対応
- ⇒平成28年熊本地震において迅速かつ重点的な避難指示や見回り等を実施
⇒死者・行方不明者ゼロ、土砂災害等の発生を最小限に

創意・工夫した点

- ・班編成に当たっては防災担当経験、出身や在職期間を考慮。
- ・住民からの指摘箇所を記録しておき、パトロール時に全て見回っている。

他団体へのアドバイス

- ・職員も含めた住民が如何に災害を対岸の火事と捉えず、自分事として捉えてもらえるかが課題。先ず臆より始めよとのことで防災担当でない職員も含めたパトロールを実施。



防災危険箇所点検シート



自主防災組織の防災訓練